

JR四国グループ

中期経営計画2025の達成に向けた取組み

【2022年度第1四半期 報告書】

2022年8月26日
四国旅客鉄道株式会社

目次

本報告書は2020年3月に国土交通大臣より受領した指導文書に基づき、四半期毎に実施される国土交通省との検証結果を報告するものです。

1. 収支の状況

- (1) 2022年度第1四半期 連結決算
- (2) 2022年度第1四半期 単体決算

2. 主要施策KPIの達成状況

- (1) 主要施策KPIについて
- (2) 検証項目一覧
- (3) 2022年度第1四半期の検証結果（総括）
- (4) 2022年度第1四半期の実績等

1. 収支の状況

(1) 2022年度 第1四半期 連結決算／前年度比較／グループ全体の状況

○連結損益計算書

第1四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率(%)	(単位：億円) 対2019年度 比率(%)
営業収益	58	89	30	153.4	73.6
営業費	122	131	9	107.5	92.0
営業利益	▲ 64	▲ 42	21	—	—
営業外損益	97	60	▲ 37	62.0	
経常利益	33	17	▲ 15	53.5	
特別損益	0	▲ 0	▲ 0	—	
四半期純利益	34	17	▲ 16	51.6	
親会社株主純利益	34	17	▲ 16	51.5	

・営業収益は、新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）による行動制限の緩和や四国アフターデスティネーションキャンペーン（以下、「四国アフターDC」という。）の開催などから、運輸業、ホテル業、物品販売業などにおいて増加し30億円の増加となりました。しかし、感染症の影響前である2019年度比は7割程度にとどまりました。

・営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、増収に伴う売上原価の増加や単価上昇による動力費の増加などにより、9億円増加しました。結果、営業利益は前年度より21億円改善し、42億円の赤字となりました。

・営業外損益は、今年度も国からの「経営安定基金の下支え」支援に伴う貸付資金を確保するため売却益を積み上げましたが、前年度、株式市場の好調時に評価益を実現した反動などから37億円の減少となりました。結果、経常利益は前年より15億円悪化したものの、17億円の黒字となりました。

・特別損益に大きな増減はなく、親会社株主純利益は16億円減少の17億円となりました。

(1) 2022年度 第1四半期 連結決算／前年度比較／セグメント別の状況

○セグメント情報

第1四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率(%)	(単位：億円) 対2019年度 比率(%)
営業収益					
運輸業	35	51	16	147.6	66.1
物品販売業	11	15	3	126.4	73.5
建設業	7	15	7	208.4	201.9
ホテル業	6	13	7	217.9	79.1
不動産業	3	4	0	121.4	86.7
その他事業	12	16	3	127.7	109.2
営業利益					
運輸業	▲ 58	▲ 44	14	—	—
物品販売業	▲ 1	▲ 0	1	—	—
建設業	▲ 1	0	2	—	—
ホテル業	▲ 3	▲ 0	3	—	—
不動産業	▲ 0	0	0	—	27.5
その他事業	0	1	1	824.3	298.6

(注) セグメント別の営業収益は、外部顧客への営業収益のほか、他セグメントへの営業収益を含んでおります。

・運輸業
鉄道及びバスの運輸収入が増加したため増収増益となりました。しかし、感染症による厳しい状況は継続し影響前である2019年度比は7割程度にとどまりました。

・物品販売業
店舗販売収入が増加したため増収増益となりました。しかし感染症による厳しい状況は継続し影響前である2019年度比は7割程度にとどまりました。

・建設業
瀬戸大橋の塗替工事やJRからの軌道工事の受注が増加したため増収増益となりました。

・ホテル業
JRクレメントイン今治の開業などにより宿泊収入が増加したため、増収増益となりました。しかし、感染症による厳しい状況は継続し影響前である2019年度比は8割にとどまりました。

・不動産業
宅地の分譲販売やテナント賃料が増加したため、増収増益となりました。

・その他事業
JRからの工場近代化工事やシステム関連の受注が増加したため、増収増益となりました。

(2) 2022年度 第1四半期 単体決算／前年度比較／当社全体の状況

○単体損益計算書

第1四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率(%)	(単位：億円) 対2019年度 比率(%)
営業収益	37	52	14	137.2	69.5
鉄道運輸収入	27	40	12	147.0	68.9
その他収入	10	11	1	110.9	71.9
営業費	92	94	1	101.9	95.9
人件費	34	33	▲ 0	98.9	88.8
動力費	3	5	1	138.7	110.5
業務費	16	19	2	113.0	85.4
修繕費	14	14	0	101.0	115.0
諸税	2	2	▲ 0	92.3	103.9
減価償却費	20	18	▲ 1	92.9	105.9
営業利益	▲ 54	▲ 42	12	—	—
営業外損益	97	62	▲ 35	63.7	—
基金運用益	86	49	▲ 36	57.8	—
(運用利回り%)	(16.64)	(9.62)	(▲7.02)	—	—
特別債券利息	8	8	—	100.0	—
経常利益	43	20	▲ 23	46.4	—
特別損益	0	—	▲ 0	—	—
税引前四半期純利益	43	20	▲ 23	46.2	—
四半期純利益	43	19	▲ 23	46.0	—

・営業収益は、感染症による行動制限の緩和や四国アフターDCの開催などから鉄道運輸収入は12億円、その他収入が1億円の増加となりました。しかし、感染症の影響前である2019年度比は7割程度にとどまりました。

・営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、単価上昇による動力費や業務費の増加などにより、1億円増加しました。結果、営業利益は前年度より12億円改善し、42億円の赤字となりました。

・営業外損益は、今年度も国からの「経営安定基金の下支え」支援に伴う貸付資金を確保するため売却益を積み上げましたが、前年度、株式市場の好調時に評価益を実現した反動から35億円の減少となりました。結果、経常利益は前年より23億円悪化したものの、20億円の黒字となりました。

・特別損益に大きな増減はなく、四半期純利益は23億円減少の19億円となりました。

(2) 2022年度 第1四半期 単体決算／前年度比較／事業別の状況

○事業別

第1四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率(%)	(単位：億円) 対2019年度 比率(%)
鉄道事業					
営業収益	32	47	14	143.4	68.7
営業利益	▲ 55	▲ 43	12	—	—
関連事業					
営業収益	4	4	▲ 0	95.9	78.9
営業利益	1	0	▲ 0	65.3	27.2

・鉄道事業

感染症による行動制限の緩和や四国アフターDCの開催などから営業収益は14億円の増加となりました。しかし、感染症の影響前である2019年度比は7割程度にとどまりました。

営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、単価上昇による動力費や業務費の増加などにより1億増加しました。結果、営業利益は12億円の改善となりました。

・関連事業

ホテル賃料収入の減少などにより営業収益はわずかに減少しました。

営業費は、JRクレメントイン今治の開業による減価償却費の増加や不動産取得税など、経費が増加しました。結果、営業利益は0.4億円の悪化となりました。

2. 主要施策KPIの達成状況

(1) 主要施策KPIについて

中期経営計画2025の施策のうち、2022年度に取り組む主要なものについて、KPIとKGIを設定し、本検証の対象としました。収入やご利用者数の項目については、業種・業態の特性に応じて感染症の影響を見込んだKPIを設定しました。

※KPI（Key Performance Indicator）とは、最終的な目標（KGI：Key Goal Indicator）を達成するための過程を計測する中間指標です。

(2) 検証項目一覧

	KPI項目
鉄道運輸収入の安定的な確保	①鉄道運輸収入の確保 ②利便性向上によるお客様満足度の向上 ③新チケットシステム検討・システムリリース ④ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員 ⑤イベントの実施及び地域イベントと連動した取組み ⑥「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興
非鉄道事業における 最大限の収益拡大	⑦(株)JR四国ホテルズの売上高 ⑧高松駅ビル開発の推進 ⑨J.CREST県庁前（高松市天神前マンション）の事業推進 ⑩四国キヨスク(株)のコンビニ店・土産店部門売上高
生産性向上・その他	⑪多度津工場の近代化 ⑫コスト削減の取組み ⑬運転資金の確保

2. 主要施策KPIの達成状況

(3)2022年度第1四半期(4~6月)の検証結果(総括)

○検証項目13項目のうち、9項目でKPIを達成、3項目で不達成、1項目で一部達成となりました。

○「鉄道運輸収入の安定的な確保」と「非鉄道事業における最大限の収益拡大」については、感染症が比較的落ち着いていたことや行動制限のない大型連休による人流回復基調のなか、四国アフターDCの開催や各種イベントの実施、地域イベントの開催に合わせた商品の造成・販売により収入の確保に努めました。これらの結果、収入関係の項目で「鉄道運輸収入の確保」及び「ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員」、「イベントの実施及び地域イベントと連動した取組み」の一部施策でKPIを達成したほか、目標に届かなかった項目でもほとんどの項目で90%を超える達成率となるなど、コロナ禍においては好調な結果となりました。また、お客様の利便性向上施策や開発案件、マンション事業推進の項目では計画通り進め、KPIを達成しました。

○「生産性向上、その他」については、多度津工場の近代化やコスト削減のための各種施策及び運転資金の確保に計画通り取組み、KPIを達成しました。

○2Qは、感染症再拡大の影響により厳しい状況が想定されるものの、各種施策に積極的に取組み、需要喚起に努めていきます。

(4) 2022年度第1四半期の実績等

① 鉄道運輸収入の確保

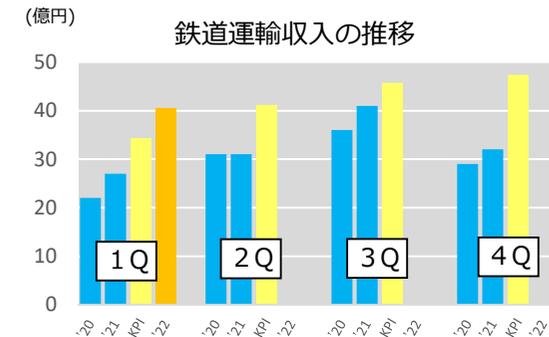
当社の収益において最大の割合を占める鉄道事業の収益確保に取り組んでいきます。

定期収入			定期外収入		
1 QKPI	1 Q実績	達成率	1 QKPI	1 Q実績	達成率
9.7億円	10.1億円	103.4%	24.5億円	30.4億円	123.9%



2022年度KGI
鉄道運輸収入169億円の達成

- ◆ 検証結果
 - ・ 1 Qは感染症の感染縮小期と重なったことから四国アフターDCの開催や、「しおかぜ」「南風」運行開始50周年記念キャンペーンの展開、指定席券売機やみどりの券売機プラスでの定期券購入キャンペーンといった施策の効果が現れ、計画を達成することができました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・ 感染症の影響が想定される厳しい状況が継続するものの、各種施策を実施することにより収入確保に努め、計画達成を目指します。



② 利便性向上によるお客様満足の上

お客様満足の向上を目指し、各種サービス・設備の導入や多言語案内の充実等に取り組めます。

1 QKPI	1 Q実績	達成状況
多言語での列車運行情報の充実	実施済み	○



2022年度KGI
各種サービス・設備の導入や多言語案内の充実

- ◆ 検証結果
 - ・ 2022年4月より新たなシステムを導入・運用開始し、駅員配置駅及びホームページでの多言語での運行情報提供の迅速化・充実を図りました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・ 今後も多言語での運行情報提供の迅速化・充実を図ってまいります。

(4) 2022年度第1四半期の実績等

③新チケットシステム検討・システムリリース

2023年春に、スマートフォンによりJR四国エリア内のきっぷを販売し、チケットレスでご乗車できるチケットレスアプリの公開を目指します。

1 QKPI	1 Q実績	達成状況	2022年度KGI
2022年秋のチケットレスアプリ（先行稼働）公開に向けた開発を進める	実施済み	○	2023年春のチケットレスアプリ（本稼働）の公開準備完了

- ◆ 検証結果
 - ・チケットレスアプリについてシステム開発を進め、動作確認テストに着手しました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・チケットレスアプリの先行稼働版を完成させ、2022年秋の公開に向け係員教育等の準備を進めます。



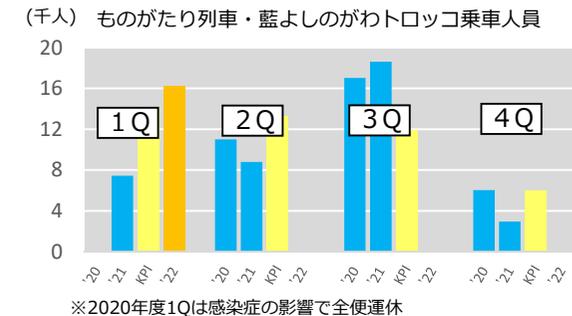
【チケットレス・キャッシュレスサービス導入イメージ】

④ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員

魅力的な観光列車やトロッコ列車の運行により、四国への誘客促進や鉄道のご利用促進に取り組みます。

1 QKPI	1 Q実績	達成率	2022年度KGI
14,000人 +フィオーレ※500人 ※グリーン個室	16,205人 +フィオーレ713人	116.7%	45,000人+フィオーレ1,790人

- ◆ 検証結果
 - ・2代目伊予灘ものがたりのデビューにあわせたイベント及び特別企画の実施、千年ものがたり5周年イベントの実施、夜明けのものがたりごめん・なはり線での運行等、各列車で様々な施策を展開してきました。施策の展開時には、メディアへの露出やSNSでの情報発信を行い、多くの方に情報伝達ができましたが、KPI達成に繋がったと考えます。
- ◆ 今後の取組み
 - ・感染症の再拡大による影響が懸念されますが、引き続き周年行事や特別企画を実施することで多くの方に情報発信をし、KPIの達成を目指します。



(4) 2022年度第1四半期の実績等

⑤ イベントの実施及び地域イベントと連動した取組み

各種イベントの実施及び地域イベントと連携した商品の造成や販売に取組み、四国への誘客促進に取り組みます。

1 QKPI		1 Q実績		達成率	2022年度KGI	
◆第2回 予土線FunFun祭り	来場者数：2,000人 臨時列車乗車人員：500人	・来場者数：2,230人 ・乗車人員：500人		111.5% 100.0%	◆第2回予土線FunFun祭り	来場者数：2,000人 臨時列車乗車人員：500人
◆瀬戸内国際芸術祭／えひめ南予きずな博／しおかぜ・南風リバイバル運転	旅行商品・特企商品 販売額 11.5百万円 (14企画 1,090人)	旅行商品・特企商品 販売額 11.2百万円 (21企画 782人)		96.4%	◆地域イベント、リバイバル運転	旅行商品・特企商品：販売額50.1百万円 (47企画 4,430人)

◆ 検証結果

- ・地域等と協力でのイベント開催、臨時列車増発、ツアー造成の相乗効果により、目標以上のお客様にお越しいただきました。
- ・地域イベントと連携した商品については、お申し込みが低調のため、多くのツアーが催行に至りませんでした。
- ・しおかぜ・南風リバイバル運転に伴う旅行ツアーについては、感染症の状況が落ち着いていたこともあり、企画の前倒しや追加を行ったため計画を上回りました。

◆ 今後の取組み

- ・今後も、沿線でのイベントやツアーの内容等を踏まえながら、臨時列車の設定を検討し、乗車機会の増加に努めます。
- ・地域イベントに関しては、駅頭での集中宣伝により旅行機運の醸成に努めます。
- ・KGIの達成に向けて、しおかぜ・南風50周年関連の取組みに重点を置き、魅力ある商品の造成・販売に努めます。

⑥ 「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興

四国の地域資源・文化資源を掘り起こし、地域と協働して観光素材に磨き上げ旅行商品として販売することで、観光による地域活性化に取り組んでいます。

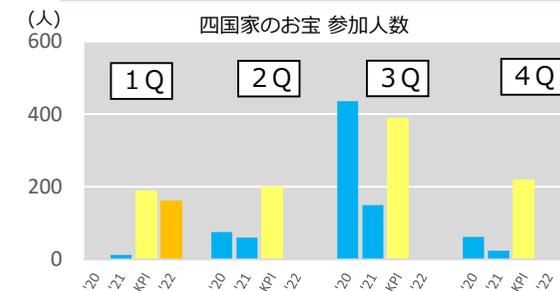
1 QKPI		1 Q実績		達成率	2022年度KGI	
参加人数	190人 (6企画催行)	参加人数	161人 (6企画催行)	84.7%	参加人数1,000人	(32企画催行)

◆ 検証結果

- ・計画どおり6企画催行できました。
- ・うち新規3企画（西条市・新居浜市・伊予市）及びお宝キッズ（さぬき市）については、定員近くまで集客できました。新居浜市・伊予市の企画では、地域の信用金庫との連携により設定できました。
- ・昨年度以前から設定した既存企画については、集客が伸び悩みました。

◆ 今後の取組み

- ・既存の周知方法に加え、新たな顧客層への周知を検討し、さらなる集客を図ります。



(4) 2022年度第1四半期の実績等

⑦ ホテルセグメント ー(株)JR四国ホテルズの売上高

マーケット動向等を注視しつつ、幅広いお客様にご利用いただける取組みやサービスレベルの向上に努めます。

1 QKPI	1 Q実績	達成率
14.8億円	13.6億円	91.5%



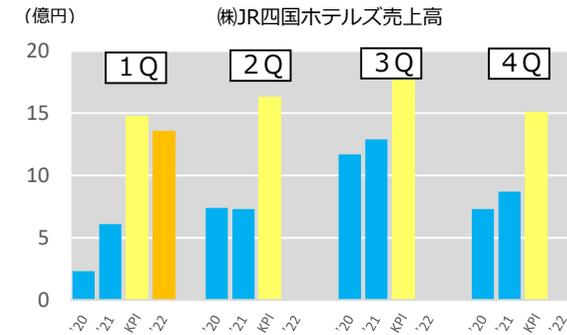
2022年度KGI
64.2億円

◆ 検証結果

・1Qは、感染者数の減少により行動制限が解除されるとともに、高松エリアにおいては瀬戸内国際芸術祭春会期(4/14-5/18)の開催や、四国4県における県民割支援再開等の効果を最大限活用すべく売上確保に努めましたが、団体のお客様のキャンセルや規模の縮小に加え、宴会部門においても懇親会の中止・規模の縮小が相次いだことから不達成となりました。

◆ 今後の取組み

・感染者数の増加傾向(第7波)に伴い、先行きが不透明な状況ではありますが、引続き、感染防止対策に努め、お客様に安心してご利用いただくとともに、「Rev.PAR」の最大化を図り売上確保に努めます。また、引き続きホテル評価の改善策に取り組み、新規顧客獲得やリピート率向上に努め、安定的な売上確保を目指します。



⑧ 駅ビル・不動産セグメント ー高松駅ビル開発の推進

街の「顔」となり、人が集い、にぎわいあふれる拠点を目指し、2023年度の開業に向け取り組みます。

1 QKPI	1 Q実績	達成状況
建設工事(進捗率5%)	実施済み	○



2022年度KGI
建設工事(進捗率50%)

◆ 検証結果

・杭工事等が完了し、目標を達成しました。

◆ 今後の取組み

・建設工事の計画的な推進に向け、施工管理に努めます。



【完成予想図】

(4) 2022年度第1四半期の実績等

⑨ 駅ビル・不動産セグメント —J.CREST県庁前（高松市天神前マンション）の事業推進

JR四国ブランドの分譲マンション「J.CREST県庁前」の2023年度分譲完了に向け、建設・販売を推進します。

1 QKPI	1 Q実績	達成状況	2022年度KGI
第一期販売開始	実施済み	○	2023年度2Qの竣工・引渡しに向けた施工と販売活動

- ◆ 検証結果
 - ・計画通りマンション基礎工事を完了し、続いて躯体工事を開始しました。
 - ・4月より第一期販売開始したため、新聞折込チラシ等の広告宣伝を実施し、モデルルームへの集客を図りました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・2023年度2Qの竣工に向けて、建築工事の進捗管理を確実にいきます。
 - ・第一期販売住戸の円滑な契約のため、引き続き広告宣伝を実施します。



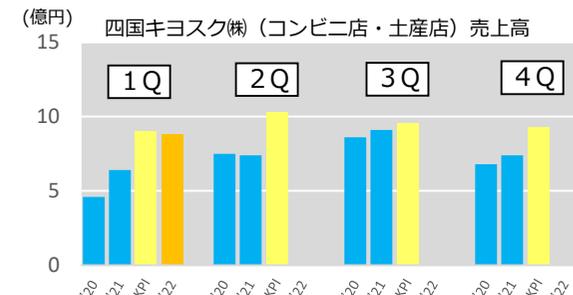
【外観イメージ】

⑩ 飲食・物販セグメント —四国キヨスク(株)のコンビニ店・土産店部門売上高

地元のお客様に向けた商品の品揃えを強化するとともに、大型イベントの開催に合わせた取組みにより売上高の確保を図ります。

1 QKPI	1 Q実績	達成率	2022年度KGI
9.0億円	8.8億円	98.1%	38.4億円

- ◆ 検証結果
 - ・1Qは瀬戸内国際芸術祭の開催や、四国4県の県民割が実施されたこともあり、観光のお客様による土産商品の売上が好調でした。また、近隣ホテルの宿泊客の取り込み施策など売上確保に努めた結果、ほぼ計画並みとなりました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・コンビニ店舗においては各種キャンペーンの実施にあたって、天候やイベントによるニーズの変化に柔軟に対応してまいります。土産店舗においては「新規商品」を積極的に採り入れることで売上拡大に努めます。



(4) 2022年度第1四半期の実績等

⑪ 多度津工場の近代化

建物や機械設備の更新にあわせ、自動化やレイアウト変更を行うことで作業効率の大幅な改善に取り組みます。

1 QKPI	1 Q実績	達成状況	2022年度KGI
設計の着手：各種設計 工事の完了：座席清掃装置設置	実施済み	○	各種設計の完了、年度工事の完了

◆ 検証結果 ・ 計画通り、各種設計及び工事を完了しました。

◆ 今後の取組み ・ 引き続き計画通り近代化を進められるよう進捗を管理します。

⑫ コスト削減の取組み

感染症の影響により厳しい状況が続くことを踏まえ、業務のデジタル化や安全に影響しない修繕費の見直し等により、グループを挙げてコスト削減に取り組みます。

1 QKPI	1 Q実績	達成状況	2022年度KGI
コスト削減（JR四国0.5億円、グループ会社0.1億円）	コスト削減（JR四国0.7億円、グループ会社1.2億円）	○	コスト削減（JR四国1.6億円、グループ会社0.4億円） 要員削減に向けた取組みの推進

◆ 検証結果

- ・（当社）安全に影響しない修繕費や通信費の見直し、業務のデジタル化、ダイヤ改正や減車による動力費削減等の更なるコスト削減に取り組みました。
- ・（グループ会社）各社において、要員の見直しや広告宣伝費の削減等に取り組みました。

◆ 今後の取組み ・ これまでに実施している施策の継続的な実施や新たな施策にも取り組み、引き続きコスト削減に努めます。

⑬ 運転資金の確保

感染症の影響が見込まれる中、事業継続を確実なものとしします。

1 QKPI	1 Q実績	達成状況	2022年度KGI
現金及び現金同等物（短期貸付金を除く）の期末残高50億円以上を確保	確保	○	現金及び現金同等物（短期貸付金を除く）の期末残高50億円以上を確保

◆ 今後の取組み ・ 2Q以降も資金効率を意識しつつ、月次においても残高50億円以上を確保します。

2022年度第1四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI		実績	達成状況
鉄道運輸収入の安定的な確保	①鉄道運輸収入の確保 KGI：鉄道運輸収入169億円の達成	定期収入	1Q	9.7億円	10.1億円	103.4%
			2Q	9.9億円		
			3Q	10.2億円		
			4Q	9.1億円		
		定期外収入	1Q	24.5億円	30.4億円	123.9%
			2Q	31.2億円		
			3Q	35.5億円		
			4Q	38.2億円		
	②利便性向上によるお客様満足の上 KGI：各種サービス・設備の導入や多言語案内の充実	1Q	多言語での列車運行情報の充実		達成	○
		2Q	待合室の拡大（阿波池田駅）			
		3Q	チケットレスアプリ先行稼働（割引きっぷ等の一部商品）、お客様アンケートの実施			
		4Q	デジタルサイネージの新設（56駅）、駅券売機の多言語対応の充実（徳島駅・高知駅）			
③新チケットシステム検討・システムリリース KGI：2023年春のチケットレスアプリ（本稼働）の公開準備完了	1Q	2022年秋のチケットレスアプリ（先行稼働）公開に向けた開発を進める。		達成	○	
	2Q	2022年秋のチケットレスアプリ（先行稼働）の公開準備完了				
	3Q	2023年春のチケットレスアプリ（本稼働）公開に向けた開発を進める。				
	4Q	2023年春のチケットレスアプリ（本稼働）の公開準備完了				

2022年度第1四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI		実績	達成状況	
鉄道運輸収入の安定的な確保	④ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員	KGI：45,000人+フィオーレ1,790人	1Q	14,000人+フィオーレ500人	16,205人+フィオーレ713人	116.7%	
			2Q	13,300人+フィオーレ550人			
			3Q	11,800人+フィオーレ440人			
			4Q	5,900人+フィオーレ300人			
	⑤イベントの実施及び地域イベントと連動した取り組み	KGI：第2回予土線FunFun祭り 来場者数：2,000人 臨時列車乗車人員：500人 瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転 旅行商品・特企商品：販売額50.1百万円（47企画 4,430人）	1Q	◆第2回予土線FunFun祭り	来場者数：2,000人 臨時列車乗車人員：500人	来場者数：2,230人 乗車人員：500人	111.5%
				◆瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転	旅行商品・特企商品 販売額 11.5百万円 (14企画 1,090人)	販売額 11.2百万円 (21企画 782人)	96.4%
				◆瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転	旅行商品・特企商品 販売額 19.3百万円 (17企画 1,740人)		
			2Q	◆瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転	旅行商品・特企商品 販売額 19.3百万円 (16企画 1,600人)		
				—	—		
			3Q	—	—		
	⑥「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興	KGI：参加人数 1,000人	1Q	参加人数	190人	161人	84.7%
			2Q	参加人数	200人		
3Q			参加人数	390人			
4Q			参加人数	220人			

2022年度第1四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI		実績	達成状況
非 鉄 道 事 業 に お け る 最 大 限 の 収 益 拡 大	⑦(株)JR四国ホテルズの売上高 KGI：64.2億円	1Q	14.8億円		13.6億円	91.5%
		2Q	16.3億円			
		3Q	17.9億円			
		4Q	15.1億円			
	⑧高松駅ビル開発の推進 KGI：建設工事（進捗率50%）	1Q	建設工事（進捗率5%）		達成	○
		2Q	”（進捗率15%）			
		3Q	”（進捗率30%）			
		4Q	”（進捗率50%）			
	⑨J.CREST県庁前（高松市天神前マンション）の 事業推進 KGI：2023年度2Qの竣工・引渡しに向けた施工と 販売活動	1Q	第一期販売開始		達成	○
		2Q	建築工事の推進			
		3Q	第二期販売開始			
		4Q	建築工事の推進			
	⑩四国キヨスク(株)のコンビニ店・土産店部門売上 高 KGI：38.4億円	1Q	9.0億円		8.8億円	98.1%
		2Q	10.3億円			
		3Q	9.6億円			
		4Q	9.3億円			

2022年度第1四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI	実績	達成状況
生産性向上 その他	⑪多度津工場の近代化 KGI：各種設計の完了、年度工事の完了	1Q	設計の着手：各種設計 工事の完了：座席清掃装置設置	達成	○
		2Q	設計の完了：入場前処理場、エンジン検修設備、各種試験機等		
		3Q	工事の完了：車両ゲート等設置、エンジン塗装設備設置		
		4Q	設計の完了：立体倉庫設備等 工事の完了：ボイラ室等新築 ボイラ設備設置、各種試験機等 取替		
	⑫コスト削減の取組み KGI：コスト削減（JR四国1.6億円、グループ会社0.4億円）、要員削減に向けた取組みの推進（数値は今後精査）	1Q	コスト削減（JR四国0.5億円、グループ会社0.1億円）	達成	○
		2Q	コスト削減（JR四国0.3億円、グループ会社0.1億円）		
		3Q	コスト削減（JR四国0.3億円、グループ会社0.1億円）		
		4Q	コスト削減（JR四国0.3億円、グループ会社0.1億円）		
	⑬運転資金の確保 KGI：現金及び現金同等物（短期貸付金を除く）の期末残高50億円以上を確保	1Q	現金及び現金同等物（短期貸付金を除く）の期末残高50億円以上を確保	達成	○
		2Q	〃		
		3Q	〃		
		4Q	〃		